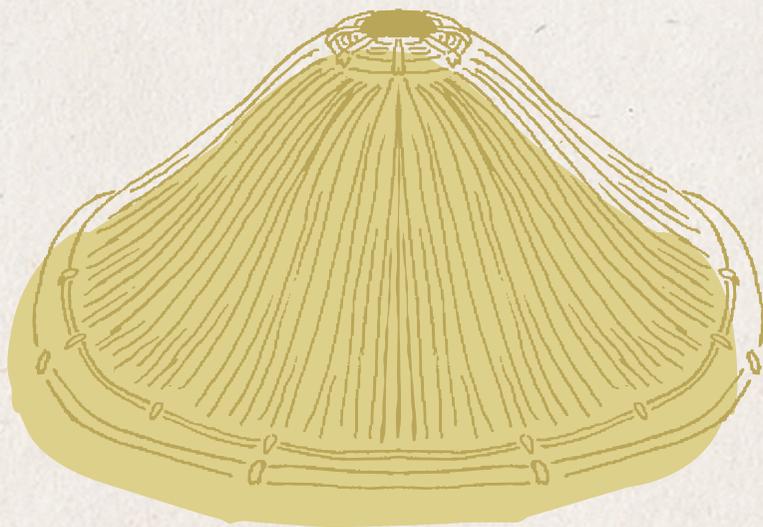


令和3年度
教育映像祭
教養部門 優秀作品賞受賞

麦は 笠を待つ
笠は 麦を待つ



むんじゅる笠

～瀬底島の笠～

ドキュメンタリー映画

笠作り: 大城善雄

話: 上間孝栄 / 大城昇源 / 大城善雄 / 大城直子 / 奥原啓公 / 喜納ツル / 座間味末子 / 仲宗根義雄 / 仲田勝幸 / 仲田政敏 / 仲程清
踊り: 渡嘉敷彩香 歌三線: 大城貴幸 太鼓: 横目大通

監督: 城間あさみ

原案: 野村岳也 脚本: 城間あさみ 製作進行: 澤岨健
撮影: 城間克彦 / 城間あさみ / 澤岨健 音声: 澤岨健 / 城間あさみ 編集: 城間克彦
製作アドバイザー: 仲松昌次 / 平良浩樹 ナレーター: 石底マキ テーマ曲・笛: 大城貴幸



むんじゆる笠

～瀬底島の笠～

2021年製作／日本映画／アスペクト比(2:1)
カラー／ステレオ／92分



むんじゆる笠とは麦わらと竹で作る日よけの笠。放射状にならんだ麦わらはつややかで美しい。そして、軽くて涼しい。



かつて沖縄では、強い日差しをよける笠として各地で愛用されていたが、今は実用的な役割よりも、祭りや舞踊のモチーフとしての笠で知られている。



舞台は、沖縄県本部町の西の海にある瀬底島。瀬底大橋が架かるまでは、シマチャビ(離島苦)の暮らしを余儀なくされた離島だった。



生活の足は船。生活物資の運搬や通勤・通学等を担い島人の暮らしを支えた。生活の水は雨。川や湧き水のない島では、水道が汚れるまでは、集落にため池、屋敷には甕やタンクを設置して雨水をためていた。水が不足すると本島のカー(井泉)の水を運んだ。貧しい暮らしの中で、瀬底島の多くの人が、副業としてむんじゆる笠を作り、笠の材料が足りないときは、島外へ調達に出かけた。むんじゆる笠は瀬底島の人々の生活の糧であり、特産品であったが、時代と共に作り手が少なくなっていった。



現在、瀬底島でたった一人となったむんじゆる笠の作り手が大城善雄さんである。



善雄さんは島の草分けの家「大底(ウフジユク)」の当主で、島唯一の男の神人「ウフシニヘー」である。



この作品は、善雄さんの野良笠と踊り笠(琉球舞踊「むんじゆる」)の製作工程と瀬底島の神事、むんじゆる笠と共に生きた島の暮らしを描いたドキュメンタリーである。

製作・配給 株式会社 カイエンシャ 海燕社

〒901-0235 沖縄県豊見城市字名嘉地60番地B-1 TEL:098-850-8485 URL:<http://www.kaiensha.jp> E-mail:mail@kaiensha.jp

2020年『むんじゆる笠 - 瀬底島の笠 -』東京/京都劇場初公開!!

3.11(金)

東京/UPLINK 吉祥寺
3/11~24(2週間)

3.25(金)

京都/UPLINK 京都
3/25~31(1週間)

3/11公開初日の上映後、城間あさみ監督の舞台挨拶を予定(感染症の状況によっては変更あり)上映時間や料金等、問合せは劇場まで(アップリンク吉祥寺 0422-66-5042/アップリンク京都 075-600-7890)